

令和4(2022)年度 事業者、保護者アンケート 集計、分析結果

2023.3.10 デイサービスにじのこ給田

(保護者32名中26名回答)  
(職員14名中14名回答)

	事業者アンケート (職員13名中13名回答)		保護者アンケート		共通項目
		はい 14名中	はい 32名中		
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか	13	26	①
	2	職員の配置数は適切であるか	13	25	②
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされているか	14	26	③
業務改善	4	業務改善を進めるための PDCA サイクル (目標設定と振り返り) に、広く職員が参画しているか	14		
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか	14		
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか	13		
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか	12		
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか	14		
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか	14	25	④
	10	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか	10		
	11	活動プログラムの立案をチームで行っているか	14		
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか	14	24	⑤
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援しているか	14		
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成しているか	13		
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか	14		
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか	14		
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	14		
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断しているか	14		
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っているか	10		
	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子供の状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか	11		

共通項目 ①～⑥  
職員同士に認識のズレがあると思うもの  
保護者と認識のズレがあったと思うもの

関係機関や保護者との連携	21	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか	12		
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えているか	4		
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか	13		
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか	8		
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか	12		
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか	1	1	⑥
	27	（地域自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか	11		
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか	14	26	⑧
保護者への説明責任等	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っているか	9		
	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	14	26	⑦
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか	14	24	⑨
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか	2	2	⑩
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか	14	25	⑪
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか	14	25	⑬
	35	個人情報に十分注意しているか	14	26	⑭
	36	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか	14	25	⑫
非常時等の対応	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか	5		
	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知しているか	14	23	⑮
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか	14	22	⑯
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか	14		
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか	14		
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか	12		
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか	14		

▶総合結果

	2022年度の結果
<p>1</p> <p>保護者との認識のズレがあったと思われるもの</p> <p>31.⑨ 保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか</p> <p>33.⑪ 子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか</p> <p>36.⑫ 障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか</p>	<p>保護者からの相談や意思疎通、共通理解については、「教えられることが多く、助けられている」「きめ細やかである」「よくしてもらって感謝している」等の意見を頂いたが、少数ではあるが、もっと必要であると感じている保護者もおられることがわかった。コロナ禍で感染予防のため対面での相談を受ける機会が減ってしまったのも一因ではあると思うが、気軽に相談できる体制を整えて保護者が発信しやすい雰囲気をつくっていけるよう配慮していきたい。</p>
<p>12.⑤ 活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか</p>	<p>活動の内容を繰り返し、積み重ねることで利用者が安心して取り組めるといことも考えながら、利用者の関心や課題、季節の内容等を取り入れながら固定化しないよう努めた。さらに工夫をしながら利用者が関心を持って参加できる活動を設定していきたい。</p>

	2022年度の結果と課題に対する対応策
<p>2</p> <p>職員同士に認識のズレがあったと思われるもの</p> <p>② 職員の配置数は適切であるか</p> <p>⑳ 保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っているか</p> <p>㉟ 事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか</p>	<p>② マンツーマン対応児に対応できる職員配置を整えてはいるが、ぎりぎりと感じる日もあるとのことなので、状況に応じて対応できるよう体制を組んでいく。</p> <p>⑳ ペアレント・トレーニングの考え方（応用行動分析等）を取り入れたトークン・カードを使用し、保護者と共通理解を持ちながら、行動の改善に反映することができた。今後はペアレント・トレーニングについての研修を設定し、職員に内容を知ってもらった上で支援に組み込み、保護者対応に活用できるよう取り組んでいく。</p> <p>㉟ 以前は法人バザーを開催していたが、現在コロナ禍で行っていない。ブログで活動の様子を公開することで、多少なりとも開かれた事業運営に努めているが、今後の計画に組み込めるよう努力していく。</p>